



何を大切に見ましょうか？

今回は生徒さんではなく、保護者の方にお便りをさせていただきます。

もうすぐ夏休み、親も子もご家庭で過ごすことも多くなるかと思えます。

この夏はコロナ禍も重なりお互い、さまざまなストレスがアップし、心も体もしんどくなるかも知れません。そこで、かつての私の痛い経験をシェアさせていただきます。2ページになりますが、夏季スペシャル版としてちょっとだけお付き合いいただけますか？

その1. ひまわりの出来事

毎年この頃になると、ひまわりの花が見事に咲いていますね。ひまわりの花を見ると、決まって思い出すことがあります。いえ、思い出すことに決めています、心に刻んでおくために。今年もまた、その季節が巡って来ました。



ある年、ひまわりの種をもらったのでプランターに蒔いてみました。すると、その中から3つ、芽が出ました。うれしくなった私は「大きく育てね」と声をかけながら、毎日水やりをしていました。そうこうしていると、3つの芽のうち中央の芽が他の2つを引き離して、ぐんぐん成長するではありませんか！他の2つはというと、成長の遅いこと遅いこと。私は心の中で、「いったいあなたがたはなにやってるのよ、一体いつになったら成長するおつもり？中央ちゃんを見てごらんさいよ！」とイライラ感がふつふつと。

そうなる、もう私は中央ちゃんしか見ていない、遅すぎる2つのひまわりなんて、もうどうでもよくて、中央ちゃんに夢中。私の願いに答えてくれるのはあなた。あなたは特別！なんて調子に乗ってしまっていた私。



ところが、ある朝、悲劇が・・・

何と、中央ちゃんが首から折れてしまっているではありませんか。『えっ、何で??』

後でわかりました。急激にひょろひょろ伸びてしまって、花を支えるだけの根を張っていなかったのが原因。根の張り具合に比例して、花と実りが決まるのだと。

上に伸びるその前に、まずは地中にじっくり根を下ろし、根を張って、目には見えないところで次の準備をしていくのです。中央ちゃんの両隣のひまわりさんは、まさにそうだったのかな？結局、その秋に実をつけ、タネを収穫できたのは遅い遅い、もういいか、なんて私にスルーされていた2つの花からでした。ずっしりとした見事なタネでした！

その2. 見えなかった、待てなかった!

私に見える姿にとらわれて、本当に大切なことを見落としていました。私の期待に添う、私を喜ばせてくれそうなもの。それが私の評価の元だった? もしかすると中央ちゃんは、毎日の私の過度なまでの『期待のプレッシャー』に答えようと、答えなければと、がんばり過ぎた?

「もうこれ以上、私に期待かけないで、プレッシャーかけないで」と SOS 出してたの? なのに私は追い立てて、期待のあおり運転のくり返し。

実はこのひまわり事件、私自身の子育てを振り返るきっかけとなりました。子どものその時のそのままを、母である私は心底喜んであげられなかった。期待のかけ過ぎ、急がせ過ぎ、あなたのペースにイライラ、待ってあげられなかった母でしたね。私の息子さん、あの時は本当にごめんなさい。



そう言えば、昔むかしに読んだね。そして感銘を受けて「私もこうありたい、目に見えないことを大切にできる大人になりたい」と心に誓ったこと、あったよね?

“キツネが王子さまに「あんたに、おれは秘密を贈り物にするよ。なに、何でもないことだよ。心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことはね、目に見えないんだよ」・・・、「かんじんなことは、目に見えない」と、王子さまは忘れないようにくり返しました。” 『星の王子さま』より



その3. 心に刻んでおきたいこと

読んでくださっているお父さんもお母さんも。そして、見えない心を大切にしたい、痛んだ心に元気回復の笑顔を贈りたいとカウンセラーになった私も。

毎日の時間との戦い、仕事との戦い、人との関係の戦いの中で、何かズレてきていないでしょうか? わが親や周囲からの期待に、『そんなに期待しないでよ、ちょっとだけ待ってほしいの』と、子どもの心と体が叫んでいるように思えます。

もっとやれるはず、がんばれと追い立てても、一体何が残るのだろうか? そんな心の教育は、私たちの大切な子どもたちに、何を残してあげることができるのでしょうか?

もしかすると今、私たち大人側に『心の調整』が必要なのかも知れません。



『なんでうちの子は?』と、ふつふつとした思いが湧いてくること、親ならありますよね。この夏もこれから。そんな時、私の痛いひまわり事件をほんのちょっとだけでも思い出していただませんか? 相談室を訪ねてくださることもウエルカムです。大切なお子さんの命と心、ご一緒に育てていきましょう。お手伝いさせてください。

学校カウンセラー 飯塚 由美子